新潟大学 災害・復興科学研究所 第21回災害環境科学セミナー 新潟焼山に関する研究紹介

日 時: 平成 30 年 7 月 23 日 (月) 16:30-17:45

※大雨等で県内に大きな被害が発生した場合は、中止することがあります。

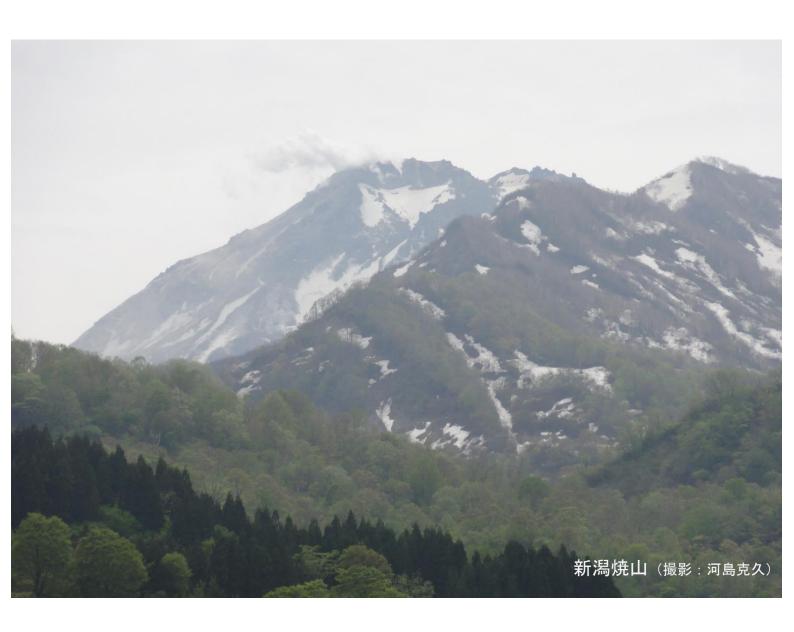
場 所: 新潟大学 災害・復興科学研究所 1階 プレゼンテーションルーム

講演者・タイトル: 舟崎 淳氏 (新潟地方気象台) 「新潟焼山 1949 年 2 月の噴火について」

藤原善明氏(新潟地方気象台)「新潟焼山 1974 年噴火に関する降灰シミュレーション」

参加方法: どなたでもご参加いただけます(申し込み不要)

問い合わせ先: 西井稜子 ryo-nishii (at) gs. ni igata-u. ac. jp (at) をアットマークに変えて送信してください



- ○発表者 新潟地方気象台 舟崎 淳
- ○タイトル

新潟焼山 1949 年 2 月の噴火について

○要旨

新潟焼山は新潟県の西部にある標高 2400m の活火山である。明治以降では、 1949年、 1962年、1963年、1974年、1983年、1997年、1998年に水蒸気噴火が発生した。最近では 2016年 4、5、7月に噴火があった。

これらの噴火のうち、遠方まで降灰を伴ったものは、1949 年 2 月と 1974 年 7 月の噴火である。 1974 年 7 月の噴火については、茅原(1975)の緊急調査研究報告書等に詳しく記載されており、詳細が知られている。

1949年2月の噴火については、Ichimura et al.、(1949)等の論文や早津(2008)によるまとめなどに噴火の概要が記載されている.しかし、噴火の詳細は必ずしも明らかになっているとは言えず、降灰量の推定値も報告されていない.

1949年2月噴火の直後に気象台等が実施した調査結果が、新潟地方気象台に保存されており、本発表では、これらの資料をもとに、1949年2月の噴火の詳細を報告する。また、降灰量を推定し、1974年7月の降灰量と比較する。さらに、本調査の結果をもとに、新潟焼山の火山防災対策の留意点を考察する。

○発表時間 約40分(質疑込み)

- ○発表者 新潟地方気象台 藤原善明
- ○タイトル

新潟焼山1974年噴火に関する降灰シミュレーション

○要旨

新潟焼山は新潟県西部にある標高 2,400m の活火山である. 約3,000 年前以降の活動では、特に、明治以降の活動は噴気の活発化や熱水の流出が発生するなど、時折火山活動の高まりがみられる. このうち、1949 年及び 1974 年の噴火では、山麓に影響を及ぼす程度の水蒸気噴火が発生した. 本講演では、1974 年 7 月 28 日噴火について、気象庁 55 年長期再解析プロジェクト(JRA-55)で作成されたデータセットを初期値・境界値として、気象庁非静力学モデル(JMA-NHM)で作成した大気場を用いた降灰シミュレーションから降灰分布を推定し、実際の降灰分布と比較検証を行った. シミュレーション結果は実際の降灰分布と概ね一致し、当時の噴煙及び降灰の状況を再現することが出来た.

○発表時間 約30分(質疑込み)